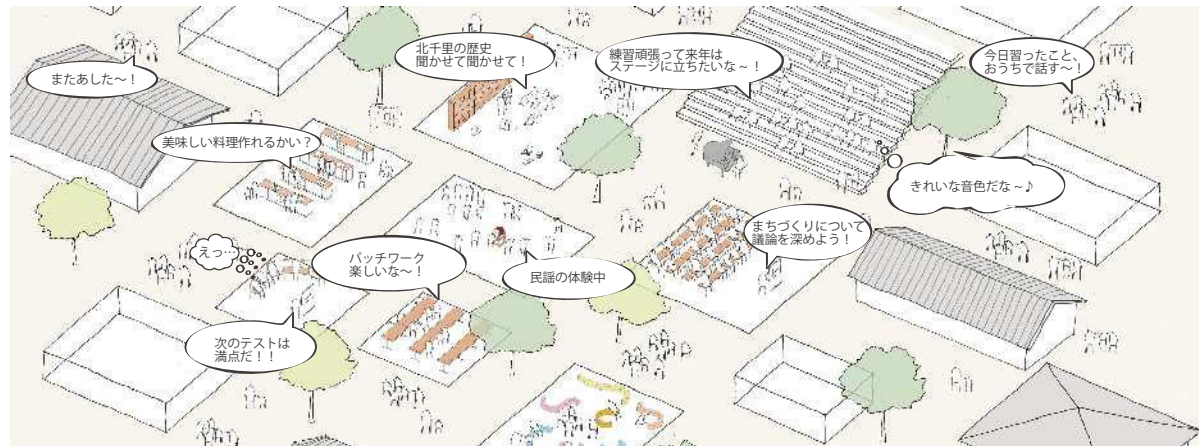


北千里小学校跡地複合施設建設整備基本計画素案(抜粋)

複合施設整備に関する基本的な方針

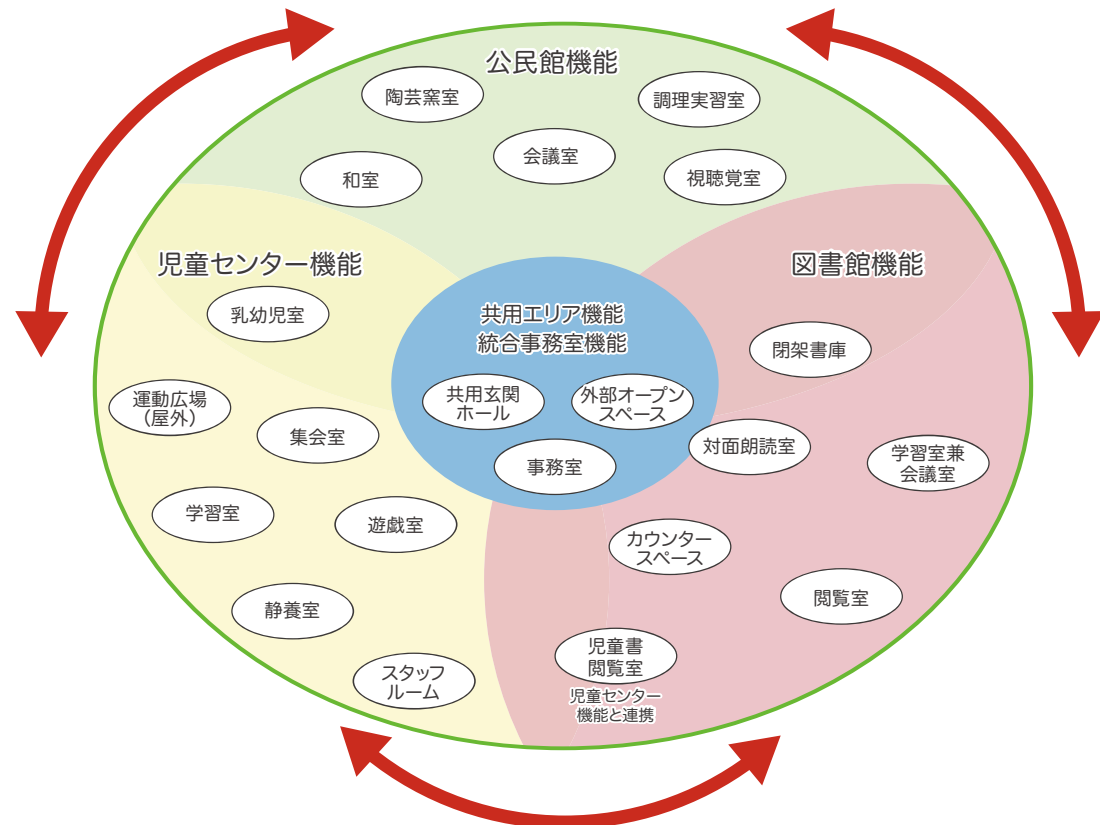
リビングが家族の結びつきを育む場であるように、ここを気軽に訪れ、集い、ふれあい、ともに心を育む、すべての人のための「マチナカリリビング」を実現します。あらゆる世代に開かれた、みんなでつくるハートウォーミングな居場所にします。

複合化により多世代交流が生まれる“マチナカリリビング”



“マチナカリリビング”のイメージ

児童センター、公民館、図書館がゆるやかにゾーニングされながら、まじりあうことで各機能が融合し、多世代が出会い、つながり、交流する滞在型施設を目指します。



各機能融合のイメージ図

「複合施設による子育て、学びの拠点づくり」をコンセプトとした施設の整備に関する基本的な方針は次のとおりとします。

誰もが利用しやすい施設

ユニバーサルデザインに配慮し、利便性・快適性の高い施設とするために、東側道路との高低差解消や、3機能の事務室を統合したワンストップ窓口を設けます。

また、施設内に交流スペース等を設けることにより、それぞれの機能をあわせたイベントを開催し、あらゆる世代がつながり、交流できる居場所とします。

社会情勢や市民のニーズの変化に対応できる施設

長期にわたって使用できる施設とするために、利用者構成や市民ニーズの変化にフレキシブルに対応できるよう、可能な限り諸室を共用できる施設とします。市民の意見や、千里北地区センターの再整備、敷地北側及び西側との連携を見据え設計に反映します。

地域の安全・安心を支える施設

災害発生時の避難施設とします。避難施設として非常用自家発電設備を設け、範囲を限定したうえで72時間分の電源を確保します。また、太陽光発電による携帯電話の充電用電源も確保します。

環境に配慮した施設

地球温暖化対策や暑熱環境対策に配慮した施設とするために、再生可能エネルギーを用いた、環境配慮型設備等を導入し、CASBEE Aクラス以上を目指します。

木材利用のモデル施設として、吹田市木材利用基本方針に基づき、大阪府能勢町産材をはじめとした府内産材を中心に国産材で木質化及び、一部木造化を視野に入れた施設とすることで、低炭素社会や循環型社会等の形成に貢献します。

景観に配慮した施設

北千里駅周辺のにぎわいと、緑豊かで落ち着いた住宅地のある環境に調和した計画とします。

経済性に配慮した施設

建設費や維持管理費の削減に配慮した施設とするために、シンプルな建物形状とします。各施設の共用空間を有効利用し、延床面積の合理化を図ります。長期的な視点から修繕・改修費等の縮減や、イニシャルコスト・ランニングコストの低減を図ります。

複合施設の整備計画

(1) 敷地概要

所在地：大阪府吹田市古江台3丁目8番街区

敷地面積：10,616.22㎡

うち、整備予定敷地面積：約5,200㎡

建物規模：延床面積 約2,700㎡程度

用途地域：第一種中高層住居専用地域

容積率：200%

建ぺい率：60%

防火地域：指定なし（法22条地域）

高度地区：25m第三種高度地区

地区計画：千里ニュータウン地区計画区域

日影規制：4時間－2.5時間（測定面4m）

景観規制：景観計画区域

宅造規制：宅地造成規制区域内

前面道路：東側 青山古江台線（建築基準法 第42条第1項第1号道路）

西側 古江台9号線（建築基準法 第42条第1項第1号道路）



敷地概要図

(2) 必要諸室一覧

各機能の必要諸室について下記に示します。

機能	必要諸室
共用エリア機能	共用玄関ホール、共用エリア、ベビーカー置場、赤ちゃんの駅、便所、給湯室
統合事務室機能	事務室
児童センター機能	靴収納スペース、静養室、更衣室、学習室、集会室、遊戯室、スタッフルーム、倉庫、乳幼児室、給湯室、便所 【外部】運動広場、運動広場用倉庫
公民館機能	会議室、視聴覚室、調理実習室、和室、陶芸窯室、倉庫
図書館機能	閲覧室、児童書閲覧室、カウンタースペース、作業スペース、予約棚スペース、学習室兼会議室、対面朗読室、倉庫、閉架書庫、返却ボックス、荷受けスペース、セキュリティゲート
千里地区センターとの連絡機能	外部オープンスペース
現状地盤からのバリア解消機能	階段、エレベーター等
その他	駐車場（屋外）、自転車駐輪場（屋外）、ゴミ置場
北千里小学校メモリアル機能	壁面展示、倉庫

必要諸室一覧

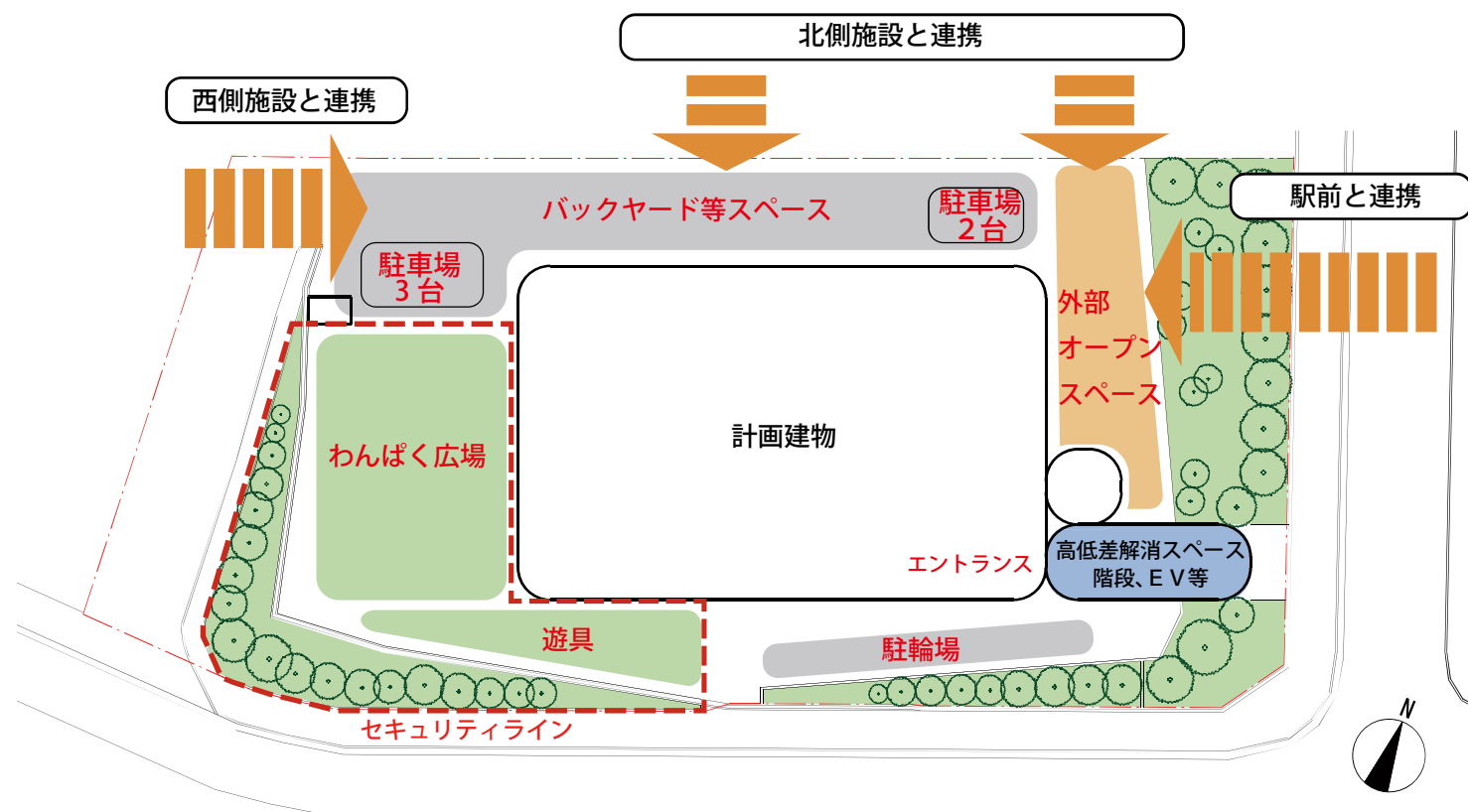
複合施設の整備計画

建物配置

配置の考え方

建物周囲にはオープンスペースや児童センターのわんぱく広場などを設け施設内部空間と一体利用することで、ゆとりのある空間とします。また、このオープンスペースやロータリーなどのバックヤードスペースを設けることで、将来駅前からの歩行者動線を施設入り口へとつなげることができ、駅前からの連続した歩行者空間を創り出します。

ロータリーは、西側施設、バックヤードスペースは、将来整備される北側施設との連携に利用することを可能とします。



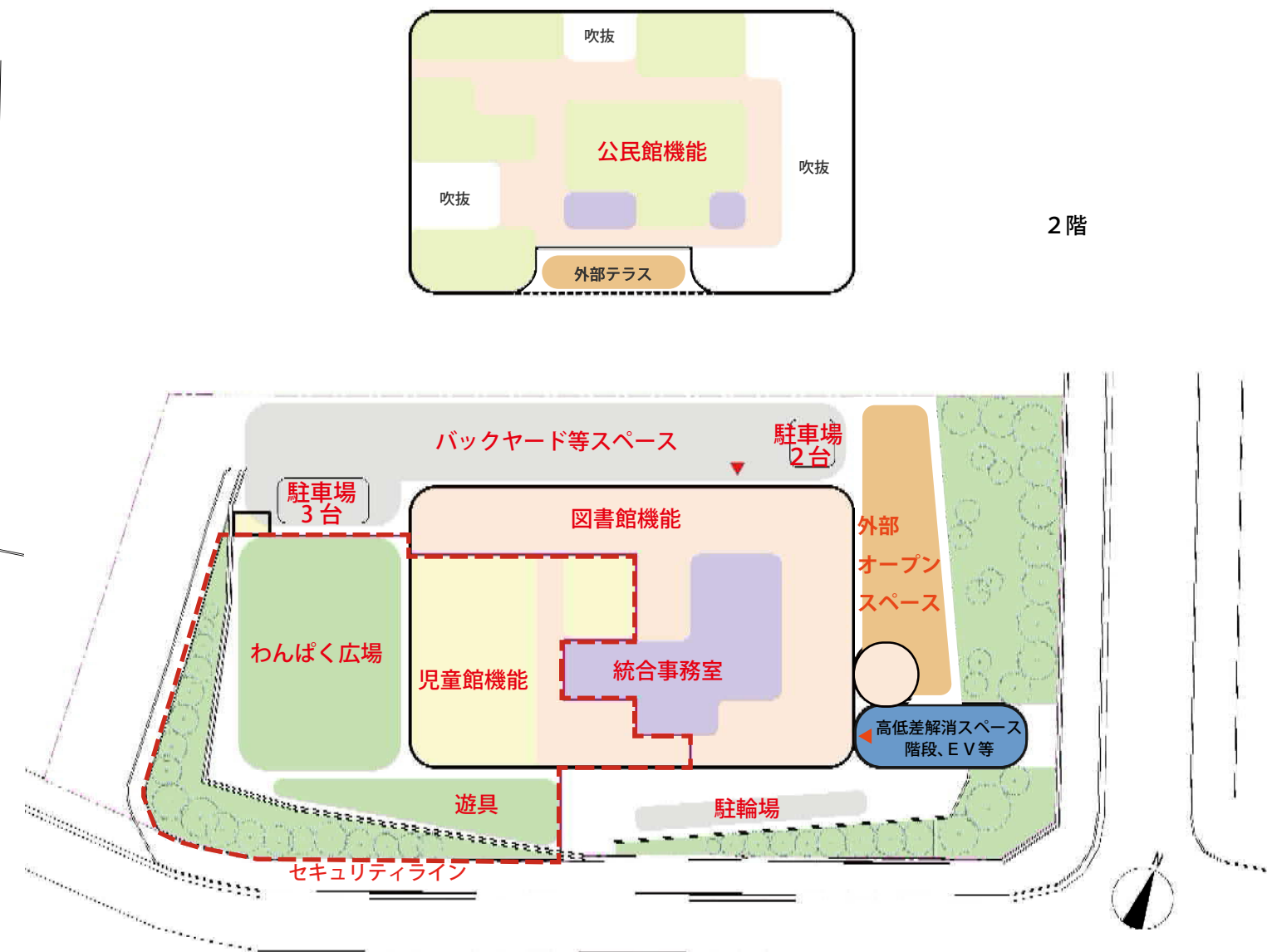
複合施設 配置計画案

平面計画

平面計画の考え方

施設の融合のコンセプトを実現するために図書館を施設全体の共用部と考えて、児童センターや公民館に本を持ち込むことを可能とします。また事務室は統合してワンストップ窓口とすることで、この施設のすべてのことがわかるようにします。

千里北地区センター側には外部オープンスペースとつながった共用スペースを配置して人々が訪れやすい施設とします。セキュリティの必要な児童センターはわんぱく広場とまとめて西側に配置します。目的を持って訪れる公民館については、2階に集約して配置します。



複合施設 平面計画案

複合施設の整備計画

事業スケジュール

年度	月数	H30年度	令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度		
		第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期
基本構想	-	■															
基本計画	9.0		■	■	■	■											
パブリックコメント	2.0				■	■											
基本設計	4.0				■	■	■										
実施設計	9.0					■	■	■	■								
施工者選定	3.0								■	■							
建設工事	16.0									■	■	■	■	■	■	■	
開設準備	3.0															■	■
供用開始	∞																■

事業スケジュール（参考）

メモ